

野菜栽培で収益 アフリカ伝える

前橋の良農園視察

国際協力機構（JICA）の農業研修で県内を訪れているアフリカの途上国7カ国の研修生8人が8日、良農園



良農園の取り組みを視察する研修生

園（前橋市田口町、伊能友和社長）の農場を訪れた。仲卸業者を省いた販路拡大や、野菜の多品目栽培など収益確保に向けた取り組み

を視察した。

8人はいずれも農業普及に携わる国や自治体の職員。4月上旬に来日し、JICA筑波（茨城県）を拠点に日本の農業の現状や仕組みを学んでいる。今月5日に来県し、甘楽町のNPO法人、自然塾寺子屋の案内で農家などを回っている。

良農園では、伊能社長が差別化を狙ってイタリア野菜を作ったり、端境期ににんじんジュースを販売したりして収益を安定させ

ていることを説明した。

マラウイ農業省で働くムンテンデレ・チブウエアさん(36)は「市場調査を踏まえて野菜を栽培していることに感心した」と話した。